

## 平成29年度学校経営計画表

### 1 学校の現況

学校番号	18	学校名	茨城県立水戸第三高等学校						課程	全日制		学校長名	森田 浩一			
副校長名	河内 聡		教頭名		中島 和久				主査兼事務長名		大和田 稔					
教職員数	教諭	53	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	50	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	4	技術職等	2	計	119
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	2	238	0	240	2	236			4	714	18				
	家政科	0	40	0	40	0	40			0	120	3				
	音楽科	4	24	4	12	2	24			10	60	3				

### 2 目指す学校像

豊かな教養に充ち、心身ともに健やかで主体的に社会に貢献できる人材を育成する学校。

### 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習態度は概ね良好で、目的意識をもって意欲的に学習に取り組み入学当初の目標を実現する生徒がいる一方、学習習慣が身に付いていないため十分な学力が定着せず、進路目標の変更を余儀なくされる者が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自発的な学習習慣の定着化、家庭学習時間を確保し、より積極的に学習に取り組みさせるにはどのような指導が必要か。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学後の進路希望調査では約80%の生徒が4年制大学を希望しているが、専門学校や就職など進路希望は多岐に渡る。当初の目標以上の成果を残す生徒がいる一方、目標を達成するために必要な努力をしない生徒もみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの能力や適性を把握し、多様な進路希望を実現させていくためには、どのような指導が必要か。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識に欠ける生徒が若干見受けられる。</li> <li>学校全体としての指導の方向性に、差が見られる部分がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想像（「水戸三高生らしさ」）に近付くために、生徒にどのようにして三高生としてのプライドを持たせていくべきか。</li> <li>共有した観点での指導を行うには、何が必要か。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事等の参加は概ね良好であるが、特に運動部の参加生徒数が減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活・学習の両立を図り充実した高校生活を送らせるには、どのような指導が必要か。</li> </ul>

#### 4 中期的目標

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 進路希望が実現できる学力を身に付けさせるため、主体的で対話的な深い学びを喚起する授業の実践や教育課程等々、各教科と連携・調整を行う。 |
| 2 | 将来の目標を見据えた進路希望を明確につかませるため、3年間をとおしたキャリア教育を実施する。                     |
| 3 | 「水戸三高らしさ」の良き伝統を継承するため、自主的・自立的な生活態度を育成する。                           |
| 4 | 健やかな心身と生きる力を育成するため、部活動や学校行事等を活性化する。                                |
| 5 | 開かれた学校づくりを推進するため、保護者や地域等との連携を強化する。                                 |

#### 5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
確かな学力の定着と学習習慣の定着化 教員の授業改善・授業力向上推進	①主体的に学習するために、予習を柱として授業が復習となるような自宅学習の習慣化の指導に努める。 ②校内研修を充実させるとともに、校外研修へ参加しやすい校内体制を整備し、授業の改善と授業力向上を図る。 ③生徒の進路希望を実現できる教育課程及び日課等の検討を行う。
生徒の実態に合った進路指導の充実	④習熟度別、分野別課外の充実を図り、生徒の学力に応じたきめ細かい指導を通して学習意欲を喚起させ、進路実現に結びつける。 ⑤進路だよりを定期的に発行し、早い段階から外部情報や本校の取り組みを知らせることによって進路意識を高揚させる。 ⑥インターンシップや近隣教育機関と交流する機会を数多く設け、社会との関わりを深めさせることによって職業観・勤労観を養う。
【生徒】自主的に、生徒間で行動できるように育てる。 【教員】指導の徹底を図れる環境づくりを行う。	⑦自主的に校則・ルールを守り、自ら教室環境整備等の生活環境の改善を行えるよう、生徒会等との協働、及び他分掌・各学年との協力のもと進める。 ⑧内規・校則・ルール、指導手順等の整備・見直しを行い、「三高スタンダード」を確立させて、新任者でも指導がしやすい環境を整える。
部活動・特別活動の充実	⑨部活動への積極的な参加を促し、文武両道の精神のもと、部活・進学の両立を図り、各大会での上位入賞を目指す。 ⑩生徒会役員のリーダーシップを促し、ホームルーム、生徒会活動、学校行事等の活性化に努める。 ⑪部活動の活性化を図るために、特色選抜入試を軌道にのせる。
広報活動の推進と充実を図る。 (音楽科・家庭科・各学年も含む)	⑫HPや広報誌を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果及び特色等を積極的に情報発信や学校公開を行い、保護者や地域住民等への周知・理解を図る。 ⑬学校説明会の実施内容や方法を工夫し、本校の魅力や特色をより広く伝える。

<p>広報活動の推進と充実を図る。 (音楽科・家庭科・各学年も含む)</p>	<p>⑭家政科生徒の活躍の場を広げると共に、家政科理解推進のために、課題研究や日頃の取り組みを文化祭・校内文化発表会等において発表する。  ⑮学校公開等を通し、本校の教育活動への取り組みを、保護者や地域住民へ周知する。  ⑯学年通信・学級通信などで、学校の様子、生徒の様子等を保護者に伝え、本校の教育活動への理解・協力を促す。  ⑰音楽科において小中学生のための音楽教室や体験レッスンを行うことにより地域に音楽科の存在をアピールする。</p>
--	---